

「平成 30 年度 市民自治を考える 市民ワークショップ」

報 告 書

平成 31 年 3 月

札幌市市民文化局市民自治推進室

目 次

第1章 開催概要.....	1
1 開催目的.....	1
2 事業概要.....	1
(1) ワークショップテーマ.....	1
(2) 参加者選出.....	1
(3) 開催日時等.....	2
第2章 ワークショップの実施方法.....	3
1 当日のスケジュール.....	3
2 ワークショップにあたって.....	4
3 ワークショップの概要.....	5
(1) グループの編成.....	5
(2) ワークショップの流れ.....	5
第3章 市民自治を考える市民ワークショップの実施.....	7
1 情報提供.....	7
(1) 情報提供「これからの地域コミュニティ」.....	7
2 ワークショップ.....	11
(1) ワークショップ① 地域コミュニティってなんだろう？.....	11
(2) ワークショップ② これからの地域コミュニティを考えよう！.....	17
第4章 参加者アンケート.....	21
1 アンケート実施概要.....	21
2 アンケートの質問項目と結果.....	21
3 参加者アンケート結果のまとめ.....	29
(1) 参加者について.....	29
(2) 参加者アンケート結果.....	29

第5章 ワークショップの考察	30
1 地域コミュニティの現状について	30
(1) 地域コミュニティのイメージ	30
(2) 地域コミュニティの範囲とプレーヤー	30
2 地域コミュニティの役割と活動	31
3 これからの地域コミュニティの仕組みと組織体制	32
 第6章 資料編	 33
1 情報提供資料	33
2 アンケート票	37
3 グループごとの意見	39

第1章 開催概要

1 開催目的

札幌市の地域コミュニティは、町内会、NPO、PTA、商店街などといった多様な主体が相互に連携しながら成り立っており、それぞれが暮らしやすいまちを実現するためのさまざまな活動をしている。しかし、近年、社会状況や生活様式の変化により、地域のまちづくり活動の担い手不足や、住民同士のつながりの希薄化などが課題となっている。

札幌市では、町内会への加入啓発や活動に役立つ講座の開催のほか、まちづくりの担い手育成や活動主体の連携促進、活動に対する助成や情報発信など、さまざまな側面から支援を行っているが、今後さらに少子・高齢化が進み、地域課題が複雑多様化していく中で、一人ひとりが安心して快適に生活していくためには、どのような地域コミュニティを形成していくことが望ましいか考えていく必要がある。

そこで今回、各地域で抱えている課題や解決に向けたアイデアなどを共有しながら、地域コミュニティの将来像について話し合ってもらい、今後の地域コミュニティの支援策等に係る参考とするためワークショップを開催した。

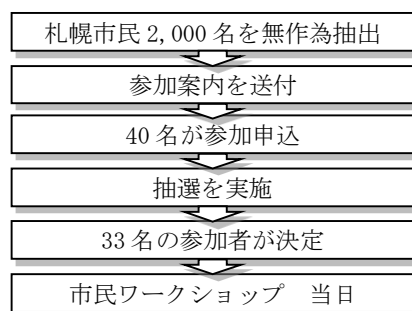
2 事業概要

(1) ワークショップテーマ

「地域コミュニティの将来像について考える」

(2) 参加者選出

日ごろ市政への参加機会が少ない方にも広く参加いただくことを目的として、住民基本台帳から無作為に抽出した2,000名の市民に参加案内を行い、申込者40名から抽選で33名を選出した。その後、体調不良等による欠席があり、当日参加者は27名であった。



○例年、参加者決定後に複数の方が辞退されていることから、定員30名に対して、今年は参加者を33名とした。

■参加者数内訳

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	計
男性	0	1	4	3	2	1	4	15
女性	0	1	1	1	2	2	5	12

(3) 開催日時等

仕事等で平日は忙しい方が多いことを想定し、できるだけ各世代の方が参加しやすいように、土曜日の開催とした。

なお、ワークショップに主体性と責任感を持って参加してもらうため、参加者には謝礼を支払った。

日 時	平成 31 年 2 月 23 日（土） 13：00～16：00
場 所	札幌市教育文化会館 4 階 研究室 403
参加者数	27 人

第2章 ワークショップの実施方法

1 当日のスケジュール

ワークショップは、次の流れで進行した。

13:00	開会（10分） ・開会のあいさつ ・ワークショップの主旨と一日の流れの説明
13:10	情報提供（10分） 『これからの地域コミュニティ』 ・地域コミュニティの必要性、課題 ・地域コミュニティの取組事例紹介
13:20	ワークショップの説明（その1）（5分）
13:25	ワークショップ①（40分） 『地域コミュニティってなんだろう？』 ・地域コミュニティと聞いて何を思い浮かべるか ・地域コミュニティとはどのような範囲で、どのようなプレイヤーがいるか ・地域コミュニティの役割や課題は何か
14:05	発表・まとめ（15分） ・各ファシリテーターからワークショップ①の発表
14:20	一休憩（10分）ー
14:30	ワークショップの説明（その2）（5分）
14:35	ワークショップ②（60分） 『これからの地域コミュニティを考えよう！』 ・ワークショップ①で出された役割や課題を踏まえ、地域コミュニティがどのような活動を行うべきか ・地域コミュニティの活動を行う上で必要な仕組みはどのようなものか ・ワークショップ①の「地域のプレイヤー」から、どのような組織体制になるとよいか
15:35	発表・まとめ（20分） ・各ファシリテーターからワークショップ②の発表 ・各グループの結果発表を受けて、一日のまとめをする。
15:55	閉会（5分） ・閉会のあいさつ、参加者アンケートの記入

2 ワークショップにあたって

参加者が積極的に参加できるよう、「当日の案内」を事前に郵送し、参加に当たっての基本的なルールと情報提供などについて周知を図った。

■当日の案内

このご案内は、札幌市内に住民登録がある方の中から2,000名を無作為に抽出し、お送りしています。

「平成30年度 市民自治を考える市民ワークショップ」 のご案内

札幌市の地域コミュニティは、町内会、NPO、PTA、商店街などといった多様な主体が相互に連携しながら成り立っており、それぞれが暮らしやすいまちを実現するためのさまざまな活動を行っています。しかし、近年、社会状況や生活様式の変化により、地域のまちづくりの活動の担い手不足や、住民同士のつながりの希薄化などが課題となっております。

札幌市では、町内会への加入促進や活動に役立つ講座の開催のほか、まちづくりの担い手育成や活動主体の連携促進、活動に対する助成や情報提供など、さまざまな側面から支援を行っております。今後さらに少子・高齢化が進み、地域課題が複雑多様化していく中で、一人ひとりが安心して快適に生活していくためには、どのような地域コミュニティを形成していくことが望ましいか、考えていく必要があります。

今回のワークショップ※では、各地域で抱えている課題や解決に向けたアイデアなどを共有しながら、地域コミュニティの将来像について、皆さまに話し合ってもらいます。皆さまのご応募をお待ちしております！

※ ワークショップでは、5～6人程度のグループに分かれ、お互いの意見を尊重しながら自由に意見を出し合い、話し合ってもらいます。

日時：平成31年2月23日（土）13:00～16:00
会場：札幌市教育文化会館 4階 研修室403（札幌市中央区北1条西13丁目）
地下鉄東西線「西11丁目」駅 徒歩5分

予定プログラム

【テーマ】「地域コミュニティの将来像について考える」

13:00～13:45 オリエンテーション
13:45～15:15 ワークショップ
15:15～16:00 まとめ、アンケート

※上記のスケジュールは、当日までに若干変更となる場合があります。

★ 応募要項 ★

【応募資格】 このご案内をお送りした封筒に記載のあて各ご本人で、別に定める同意事項にご同意いただける方。
【募集人数】 30名程度（応募多数の場合は抽選とします。）
【参加報酬】 3,000円（ワークショップ終了後、口座振込によりお支払いいたします。）
【応募方法】 同封の黄色の「参加申込書」に記載の同意事項をよこ紙の上、必要事項を記載し、返信用封筒に入れてご送付ください。（直接ご持参によるご提出も可能です。）
【募集期間】 平成31年1月23日（水）必着
【お問い合わせ先】 電話 011-211-2253 札幌市中央区北1条西2丁目 札幌市役所 13階南側
市民自治推進課 推進係 担当者 石川（イシカワ）→橋本（ハシモト）

文書番号 平成30年（2018年）月 日 札幌自治 号
発行者 札幌市市民文化局市民自治推進室市民自治推進課

SAPPORO

「平成30年度 市民自治を考える市民ワークショップ」
参加申込書

この申込書は、参加申込みをされる方のみ、ご記入・ご返送いただくものです。
参加申込みをしない方は、ご返送は不要です。

① 同意事項のご確認

お申込みにあたっては、裏面の同意事項を必ずお読みください。同意していただける方は、下の□に✓を記入してください。

☐ 裏面の同意事項に同意し、参加を申込みます。

② 申込書

太枠内にご記入ください。

フリガナ	性別	居住する方にごつけてください。
お名前		男・女
年代	居住する方にごつけてください。 10歳代・20歳代・30歳代・40歳代・50歳代・60歳代・70歳以上	
ご住所	札幌市 区	
電話番号		

③ アンケートにご協力をお願いします。

今回、ご応募いただいた最も大きな理由は何か？あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

1 テーマに興味があるから。	2 ワークショップに興味があるから。
3 市で行っている行事に参加したいから。	4 知らない人と意見交換や交流をしたいから。
5 周り（ご家族など）にすすめられたから。	6 報酬があるから。
7 その他（ ）	

ご協力ありがとうございました。

お申込み期限 平成31年1月23日（水）必着

同封の返信用封筒をご利用ください。（直接ご持参も可能です。）

※ この申込書に記載いただいた内容は、「平成30年度市民自治を考える市民ワークショップ」の実施のためにのみ使用いたします。

同意事項

お申込みにあたっては、下記の同意事項をよくご読みになり、ご同意の上でお申込みください。

- 「市民自治を考える市民ワークショップ」は札幌市の主催ですが、当日のワークショップの進行など運営については「株式会社 KITABA」に委託して行います。
- お申込み・ご参加いただける方は、このご案内をお送りした封筒のあて各ご本人に限り、ご家族も含めて、他の方へ応募・参加資格を譲渡することは一切できませんので、あらかじめご了承ください。
- 参加申込書のうち、①または②の記載に不備がある場合は、無効とさせていただきます。また、ご本人以外からのお申込はすべて無効とさせていただきます。
- 車いすをご利用の方など、ご参加にあたって配慮を必要とする方は、申込書の余白にその旨ご記載ください。
- お申込み期限は、平成31年1月23日（水）必着です。選考スケジュールの都合上、期限を過ぎた場合は、理由にかかわらず無効といたしますので、余裕をもってご返送くださるようお願いいたします。申込書を直接ご持参いただく場合は、中央区北1条西2丁目 札幌市役所 13階南側 市民自治推進室（オレンジ色の③）までお願いいたします。
- 応募者多数の場合は、抽選により参加者を決定いたします。なお、前年度に実施した「平成29年度 市民自治を考える市民ワークショップ」には、30名の募集に対して44名の方からご応募いただきました。
- 上記5に記載の期限内にお申込みいただいた方には、平成31年2月1日（金）までに、参加決定または抽選結果の通知をお送りいたします。
- 参加報酬（3,000円）は、ご参加いただいた方に対して、後日、口座振込でお支払いいたします。事前・当日のお支払いや、口座振込以外の方法でのお支払いはいたしません。なお、交通費の支給はございません。
- 当日のご参加は、参加決定をした方ご本人に限ります。理由にかかわらず、代理の方のご参加はできませんので、あらかじめご了承ください。
- 当日のワークショップの様子を写真撮影し、札幌市役所の公式ホームページに掲載する予定です。また、ワークショップは公開としているため、報道機関などが入る可能性がございます。このため、本市または報道機関などが撮影する写真や映像に映り込む可能性がございます。

【この書類に関するお問い合わせ先】
札幌市市民文化局市民自治推進室市民自治推進課 電話 011-211-2253

3 ワークショップの概要

ワークショップは「地域コミュニティの将来像について考える」をメインテーマに設定して、2部構成で行った。

(1) グループの編成

意見交換は6グループ（1グループ4～5名程度）を作り、ワークショップ①とワークショップ②を行った。ワークショップ①の議論を受けて、ワークショップ②ではより深い内容を話し合うことができるよう、グループの再編成は行わなかった。

また、意見交換を円滑に進めるため、各テーブルにファシリテーターを1名ずつ計6名配置し、参加者の意見を引き出すこととまとめ役を担った。

(2) ワークショップの流れ

1) 進め方の説明

総合ファシリテーターから、ワークショップの進め方について簡単に説明した。

2) ワークショップ①『地域コミュニティってなんだろう?』（40分）

情報提供を受けて、今後の社会情勢の変化など（高齢化の進行、防災の備え、子育ての大変さ）を考えたときに、地域コミュニティがどのような活動を行い、どのような役割を担うことが必要かを考えてもらった。

また、自らの現状のかかわりを踏まえつつ、地域コミュニティがどうあればよいかを考えてもらった。

① テーブルファシリテーター及び参加者の自己紹介【5分】

目安として1人1分程度で自己紹介をしてもらった（名前、住んでいる区、好きなお味噌汁の具など）。

② 地域コミュニティのイメージ【5分】

地域コミュニティと聞いて何を思い浮かべるか、各自意見を出してもらった。

③ 地域コミュニティの範囲とプレイヤー【10分】

地域コミュニティと聞いてどのような範囲が考えられるか？また、その範囲で、どのような人や団体がいるのか各自意見を出してもらった。

④ 地域コミュニティの役割【25分】

地域コミュニティの中にいるプレイヤーが、現在どのような活動を行っているかを考えてもらい、地域コミュニティがあると自分にとって助かること、また地域の人にとって助かることは何か意見を出してもらった。

3) ワークショップ①のまとめ

総合ファシリテーターがワークショップ①でどのような議論がされたか、全体で議論内容をまとめ、共有した。

4) ワークショップ②『これからの地域コミュニティを考えよう！』（60分）

ワークショップ①で“地域コミュニティとは何か”について出してもらった意見を踏まえて、どのように地域コミュニティをよくしていけばよいかについて、地域コミュニティがやるべきことや、地域コミュニティに参画してもらうための仕組みや体制について考えてもらった。

意見交換の内容は次のとおりである。

① 地域コミュニティの活動【20分】

ワークショップ①で出された課題や役割を踏まえ、地域コミュニティがこれからどのような活動を行うべきか、具体的なアイデアを出してもらった。

② 地域コミュニティの仕組み【20分】

SNS やアプリで参画しやすい仕組みや、町内会とは違う組織（エリアマネジメントなど）で強制加入として暮らしに必要なことだけ担う仕組みなど、地域コミュニティの活動を行う上で必要な仕組みを考えてもらった。

③ 地域コミュニティの組織体制【20分】

ワークショップ①の「地域コミュニティのプレイヤー」から、どのような組織体制になるとよいか考えてもらい、町内会だけでなく、地域団体がネットワーク化して活動するといった他団体と連携していくなどのアイデアが出た。

また、自分がプレイヤーとしてどう参画をしていけるか、または、どう参画していきたいかも考えてもらった。

5) グループごとの発表

テーブルファシリテーターがグループ内の意見をまとめ、1 グループ約 2 分程度で発表を行った。

6) まとめ

総合ファシリテーターが、全グループの発表内容から意見、傾向等をまとめ、確認した。

第3章 市民自治を考える市民ワークショップの実施

1 情報提供

(1) 情報提供「これからの地域コミュニティ」

株式会社 KITABA の酒本氏より、地域コミュニティとは何かということについて、説明を行った。また、人口減少や少子高齢化が進む場合に懸念されること、その解決のための地域コミュニティの必要性について情報を提供した。

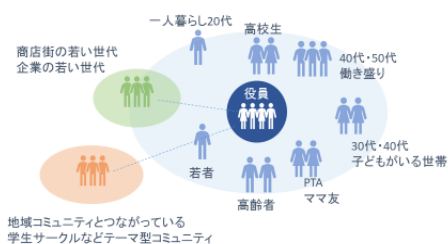
これらの地域コミュニティの現状や役割、今後の課題等を踏まえ、様々な地域コミュニティの取組事例について紹介した。

■地域コミュニティとは

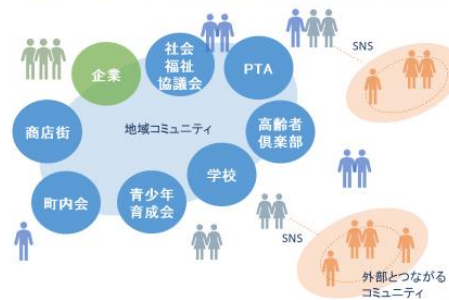
Community（コミュニティ）は、「共同体」、「地域社会」、「近隣社会」と訳されることが多く、インターネット上での集まりや地域を超えて幅広い人材で活動を展開する組織（NPO 等）もコミュニティと言われていることを説明した。

地域コミュニティのメンバー

地域コミュニティは様々なメンバーで構成されています



地域コミュニティを運営に関わる組織・構成



■地域コミュニティの必要性

地域コミュニティの必要性として、以下の項目を説明した。

- 災害時の助け合い
- 除雪・排雪の協力
- 高齢者の見守り
- ゴミステーションの管理
- 子育て支援

■地域コミュニティの活動の事例

生活サービス×コミュニティ力

○みんなのお店 KAMIBI（芽室町上美生地区）

根室町上美生地区にある A コープが閉店。その後「NPO 法人上美生」が、店舗跡で飲食料品などの販売業を始め、生活サービスを保っている。

子育て支援×コミュニティ力

○北野の子ども食堂「子リス食堂 MogMog（モグモグ）」（札幌市清田区）

高齢者の生活支援ハウス「静樹苑」内に開設された。静樹苑を運営する社会福祉法人厚仁会が、「地域で子どもと子育てを支えよう」をコンセプトに、子どもたちや子育て中の親世代が気軽に集まれる場所として開設している。

○子育てサロン「ミッキークラブ」（埼玉県富士見市）

月 4 回集会施設を借り、中高年ボランティアが中心となって、親子が集える場を提供する等の子育て支援を行っている。高齢者のボランティアの中では、活動に参加することにより母子の役に立つということに生きがいを感じるなどの効果が生まれている。

高齢者見守り×コミュニティ力

○社会福祉協議会

高齢者の見守りにつながる取組などを実施。

○水道検針で高齢者の見守り（島根県雲南市）

人口減少とともに高齢化が進んでいる地区で、地域住民組織が市から水道検針業務を受託し、月 1 回の検針の際に、高齢者に声掛けをしながら見守り活動を行っている。

○コミュニティカフェ「こっぽら土澤」（岩手県花巻市）

人口減少とともに高齢化が進んでいる土澤地区では、訪問介護ステーション、惣菜屋、レストランなどが入った地上 3 階・地下 1 階の店舗付き共同住宅「こっぽら土澤」を実施している。

○100 円食堂（沖縄県那覇市）

団地内の高齢者の居場所づくりと個食（孤食）の改善をするため、100 円食堂でのちょっとしたおしゃべりを通じて、団地内の課題発見や見守り体制を強化している。

防災災害対応×コミュニティ力

○災害図上訓練と炊き出し訓練（札幌市南区石山地区）

実際に災害が起こった時を想定し、町内会マップに危険地帯や安全な場所を話し合って書き込み、防災マップを作成した。

交流人口×コミュニティ力

○外国人を対象にしたサイクリングツアーの住民ガイド（北海道浦臼町）

サイクリングツアーなどでまちに来る外国人観光客に対し、地元住民が受入やガイドを実施している。

空き家利活用×コミュニティ力

○ふくい会館（北海道札幌市）

閉鎖となった幼稚園の払い下げを受けて、会館をリノベーションすることによって、多様な活動の場として広く利用されており、収益を生んでいる。

○パン屋とカフェ「タルマーリー」（鳥取県智頭町）

人口 7,000 人弱のまちで元保育園を活用し、パン屋とカフェを開業。国内だけでなく、海外からの来客も増えている。

○ハウスハルテン（ドイツ ライプツィヒ）

空き家を資源として活用するため、5 年間の期限付きで、空き家所有者に物件を提供してもらい、利用者を募集してストック循環している。

○コミュニティ・ランド・トラスト（イングランド リバプール）

空き家や土地を地域住民たちで共有し、エリアの開発に乗り出した。建築家やアーティスト集団と協力している。

○アーバンガーデン（ドイツ ベルリン）

誰でも自由に参加できる新しいコミュニティの場を創出。空き家を市民で共有し、庭としての機能だけでなく、教育や研究のための重要なネットワークにもなっている。

再生可能エネルギー×コミュニティ力

○東松島市スマート防災エコタウン（宮城県）

太陽光発電と蓄電池などでエネルギーをコミュニティ内で共有している。

エリアマネジメント×コミュニティ力

○ブルームガーデンのぞみ野（兵庫県姫路市）

居住者が街を維持、管理、運営するための管理組織を組成している。

○俱知安町ニセコひらふ地区エリアマネジメント

定住者が少ない地域であるため町内会がなく、エリアマネジメント組織でまちづくり活動を実施。花壇づくりや清掃活動など環境美化のほか、夏まつりやイルミネーションなどのにぎわいづくりの取組も行っている。

○一般財団法人荒井タウンマネジメント（宮城県仙台市）

震災復興に向け、長期的な価値向上につながるまちを目指し、顔の見える関係や安心安全なコミュニティづくり、公共空間を活用したイベントの開催などを行っている。

子育て×高齢化×空き家空き店舗×コミュニティ力

○NPO 法人「ふらっとステーション・ドリーム」（横浜市戸塚区ドリームハイツ）

団地の中にある閉店した薬局を改装したカフェタイプの居場所であり、皆が飲食を共にし、交流する場となっている。毎日オープンしており子どもから高齢者まで、多くの住民で賑わっている。

SNS × コミュニティ力

○Domingo

北海道の情報一覧を見ることができる地域密着型のアプリ。

○マチマチ

地域での困り事解決や、医療・暮らし・ショッピング・グルメ・イベントなどの情報共有ができるアプリ。

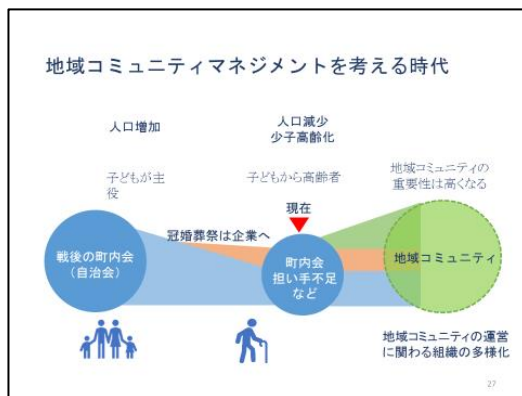
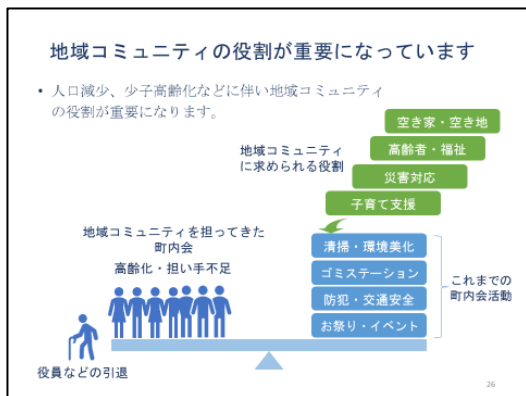
Onext door

アメリカ発のローカル SNS（北米で 141,000 のコミュニティが運営）でモノの貸し借りやイベントのお知らせ、小学校の情報、落とし物の情報など様々なシーンで活用されている。

ニューヨークをはじめ 650 の地方自治体が提携し、犯罪やその他の重要な情報を配信するためにも活用している。

■地域コミュニティの役割の重要性

人口減少や少子高齢化により、今まで地域コミュニティを担ってきた役員などが引退し担い手不足が課題になる中、これからの地域コミュニティに求められる役割は多くなってきていることを説明した。今後、地域コミュニティの重要性は高くなり、運営に関わる組織の多様化も必要になってくる。



2 ワークショップ

(1) ワークショップ① 『地域コミュニティってなんだろう?』

主な議論のテーマ

- 地域コミュニティのイメージ
- 地域コミュニティの範囲とプレイヤー
- 地域コミュニティの役割

1) ワークショップ①の進め方

あらかじめ振り分けた4～5人ずつのグループに分かれて意見交換を行った。

株式会社 KITABA の酒本氏による『これからの地域コミュニティ』の情報提供を受け、地域コミュニティとは何かについて、右の模造紙に書かれている4つのテーマに基づき、それぞれ考えてもらった。

市民自治を考える市民ワークショップ① 『地域コミュニティってなんだろう?』		グループ
地域 コミュニティの イメージは?		
地域 コミュニティの 範囲は?		
地域 コミュニティの プレイヤーは?		
地域 コミュニティの 役割や課題 は?		

■ワークショップの様子



2) 主な意見

これからの地域コミュニティについて考えるにあたり、まずは「地域コミュニティ」とは何かを考えてもらった。参加者が考えた地域コミュニティのイメージとしては、「町内会」や「あいさつがある関係」のほか、「地域コミュニティの希薄化」というような意見が多く出された。

また、地域コミュニティの範囲としては、「近所」から「区や市、道」といった幅広い範囲で意見が出されたが、「町内会範囲」という意見が最も多かった。プレイヤーについては、「住民全員」から「地域団体」や「お店」と様々な意見が出された。

3つのテーマ全てに町内会に関する意見が上がっており、「地域コミュニティ=町内会」というイメージが強いことが伺えた。またそれに付随して、課題についても町内会活動に関する意見が多く出された。

■地域コミュニティのイメージは？

- | | |
|----------------------------------|-----------------------------------|
| ☐ あいさつがある関係 | ☐ 希薄化している |
| ☐ 町内会（町内会活動） | ☐ 町内会以外の地域の団体 |
| ☐ 年代が幅広い | |

○あいさつがある関係

- ・ あいさつはコミュニティの原点
- ・ 除雪をし合って、“ありがとう”とあいさつできる関係
- ・ 顔見知り、仲が良い、気心知れた仲
- ・ あいさつ、お礼、声かけ
- ・ 相互扶助だが、それほど密着していなくてもゆるく繋がった関係

○希薄化している

- ・ 距離感が難しい
- ・ 地域コミュニティが希薄になっている
- ・ 必要であるがめんどうである
- ・ 町内会は少し前ほど活発ではなくなり、地区によって活発さが異なる
- ・ 意識の高い高齢者にまかせっきり

○年代が幅広い

- ・ 年代も様々で交流の場所になる
- ・ ご年配の方、お子様、様々な年齢の人が交流する場（盆踊りなど）

○町内会

【町内会全体のイメージ】

- ・ 町内会が一番身近に感じる
- ・ 仕事（本業）との両立が難しい
- ・ 町内会は地域活性化への基礎部分
- ・ 町内会の大切さ、再認識

- ・道や市ができないときに行う団体
- ・災害時の見守り、助け合い

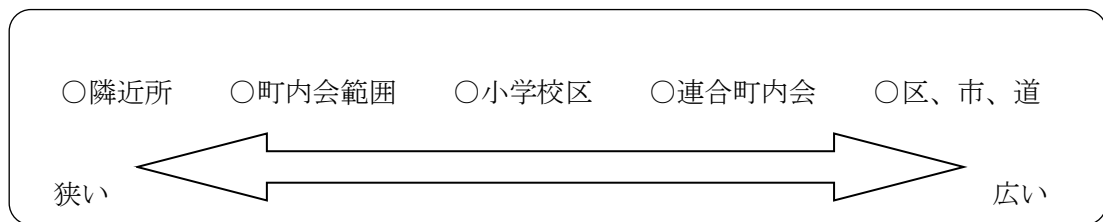
【町内会活動のイメージ】

- ・パートナーシップ除雪
- ・回覧板
- ・ゴミステーション
- ・通学路の見守り
- ・町内会のレクリエーション
- ・町内会、子ども会
- ・町内会、亡くなった方のお葬式
- ・ゴミステーションの管理
- ・生活には欠かせないゴミステーションや排雪、イベントなど
- ・清掃、お祭り、花壇準備、学童の見守り、雪かき等
- ・花植え、掃除

○町内会以外の地域の団体

- ・マンションの管理組織など
- ・神社を知ってもらう団体を小樽でしていた
- ・習い事のコミュニティ
- ・マンションの管理組合
- ・ファイターズの会
- ・PTA（小学校）

■地域コミュニティの範囲



○隣近所

- ・近所、お向かいさん、家の並び
- ・あいさつできる
- ・住んでいる人の顔が見えている範囲
- ・町内会より家の近さとかのほうが関わりやすい
- ・通りすがりでも助け合いがあればコミュニティなのではないか
- ・社宅も大きければ地域コミュニティ

○町内会範囲

- ・町内会役員
- ・町内会
- ・夏祭りとかをやるくらいの規模

- ・高齢者の方々のつながり

○小学校区

- ・ママトモ
- ・PTA 校区
- ・保育園、小学校の親同士の結びつきが強いイメージ

○連合町内会

○区や市、道

■地域コミュニティのプレイヤー

- | | | | |
|----------|---------|----------|----|
| ○町内会 | ○住民 | ○保育園、幼稚園 | ○店 |
| ○病院 | ○地域団体 | ○公共施設 | |
| ○高齢者関係団体 | ○学校、PTA | ○NPO | |

○町内会（町内会役員）

○病院

○高齢者関係団体（民生委員、高齢者施設）

○住民（住民みんな、おせっかいさん、高齢者、リタイヤ世代）

○地域団体（消防団、自警団、青少年団、ボランティア団体）

○学校、PTA

○保育園、幼稚園（保護者のグループ、子ども）

○公共施設（図書館、体育館、区民センター、市役所）

○NPO

○店（商店街、コンビニ、スーパー）

■地域コミュニティの役割や課題は？

- | | |
|----------------|----------|
| ○安心安全 | ○交流 |
| ○ごみや除排雪 | ○高齢者の見守り |
| ○子どもの見守り、子育て支援 | ○情報発信・共有 |

○安心安全

【役割】

- ・街灯が切れた時の対応
- ・声かけ
- ・顔が見える関係だといざという時にも助け合いができる
- ・防災手紙が回ってきた際、アンケートで現状を調べていて安心した
- ・地域の困っている人（高齢者、子ども）を支え合う
- ・災害時の情報提供
- ・災害時の安否確認もしてはどうか？

- ・災害時に声をかけあえる関係を構築
- ・災害時の対応などは町内会ですると良い

【課題】

- ・見回りを平日の昼間にするのは辞めた方がいいと思っている
- ・災害時の助け合い（救出、救急など）
- ・班長として災害時に声かけが必要ではないか
- ・防災訓練はやっていきたい

○ごみや除排雪

【役割】

- ・ごみ、除雪は生活を支えるもの
- ・ごみ拾い
- ・除雪を頼んでいないのにやってくれる

【課題】

- ・ごみステーションについての地域内での合意と引継ぎが課題

○子どもの見守り、子育て支援

【役割】

- ・子どもの見守り

○交流

【役割】

- ・気軽に相談できる場、場所、仕組み、集まれるところ
- ・町内に例のカフェみたいな場所があるといい、気軽にいけるところ
- ・七夕まつりなど
- ・高齢者のイベント
- ・こういうワークショップに参加する人が増えると良い！

【課題】

- ・活動が少なく参加者も減っている
- ・20～30代には向かない内容のイベントが多い
- ・子どもは少ないけどイベントを多くやっているところもある
- ・どう参加していいかわからない人もいるはず
- ・イベントに参加してくれない⇔魅力を感じない 日中だからいけない
- ・参加・参画が少ない
- ・働いている人が参画していくのが大変

○高齢者の見守り

【役割】

- ・役所の方が介護に訪ねてくる 様子を見てくれていてうれしい
- ・医療との連携、独居の方に何かがあったときの見守り、対応
- ・高齢者の見守り

○情報発信・共有

【役割】

- ・情報の発信・共有（回覧板・メール・SNS など）
- ・子育て世代のネットワーク（連絡網的な）
- ・LINE でつながっている
- ・通学路・不審者情報の共有
- ・地域の要望を市にあげる、窓口としての役割

【課題】

- ・誰に言えばいいのかわからない
- ・回覧板だけだと情報が入ってこない
- ・マンションでは回覧板も回っていない、掲示板だけ
- ・買い物や避難情報がほしい
- ・取組を必要としている人がいてもその人達に届いていない
- ・町内会とかその他の団体がどんなことをやっているのか必要性が知られていない

(2) ワークショップ② 『これからの地域コミュニティを考えよう!』

主な議論のテーマ

- 地域コミュニティの活動
- 地域コミュニティの仕組み
- 地域コミュニティの組織体制

1) ワークショップ②の進め方

ワークショップ①と同様のグループで意見交換を行った。

ワークショップ①で出された意見を全体で共有し、地域コミュニティの範囲やプレイヤー、役割を確認した後、これからの地域コミュニティのあり方をグループごとに考えてもらった。

アイデアを考える際、ワークショップ①で出た意見を基に、“地域コミュニティのあるべき姿”に向けて、これからの地域コミュニティで行うべきことや、組織の体制、仕組みについて意見を出してもらった。

■ワークショップの様子



2) 主な意見

地域コミュニティの活性化のために、地域コミュニティがどのような取組を行うと活性化につながるか、また、どのような仕組みと組織体制を検討していくべきかを考え、アイデアが出された。

主な意見は以下のとおりである。

■地域コミュニティの活動

○防犯・防災

○高齢者の見守り

○子どもの見守り

○交流事業

○ごみや除排雪

○防犯・防災

- ・9月6日の地震のことを考えると、防犯防災
- ・災害時の助け合い
- ・災害があった時の協力体制や備蓄をしっかりとする
- ・停電時の水くみを動ける人でやった
- ・避難指示があった際に車で連れて行ってくれる人がいたらいい
- ・AEDをコンビニ（24H）においてほしい

○交流事業

- ・地域のおまつりはあった方がいいのではないか
- ・人と人との触れ合いが少なくなっているので寂しい
- ・リサイクル市やフリーマーケット開催
- ・ネットありきは関係づくりが難しく、顔が見える関係づくりが大事
- ・顔が見える関係が必要
- ・あいさつから交流をはじめる

○高齢者の見守り

- ・高齢者のサロンやランチ会を開催
- ・町内会単位で高齢者を把握する必要がある
- ・高齢者は交流を求めている
- ・高齢者の見守りや買い物支援

○子どもの見守り

- ・子どもの見守りや子育て支援
- ・子ども達のふるさと意識の醸成をする

○ごみや除排雪

- ・高齢者の独居の家の除雪をサポートする
- ・ごみステーションの管理
- ・花植え

■地域コミュニティの組織体制

○町内会のスリム化

○ネットワーク型の地域コミュニティ

○町内会のスリム化

- ・昔は町内会が担っていたつながりづくりは、現代はそれに替わる組織が必要
- ・ごみや除雪など、町内会の事業を一度リセットしてできることだけやってみる
- ・町内会の負担を減らす
- ・町内会活性化のためのアドバイザー支援が必要

○ネットワーク型の地域コミュニティ

【学生との連携】

- ・教育、学習支援
- ・学校の授業の1つで体験ができる
- ・大学生、高校生と一緒に発信方法（ホームページやSNS）を考える

【他団体との連携】

- ・町内会を核に他団体と連携を密にとれる仕組み
- ・町内会とPTAなどがネットワークとして普段から繋がっておく必要がある
- ・NPOなど外部からアドバイスをもらう
- ・趣味のコミュニティとつながる
- ・医療機関、警察などともつながる

【組織体制やプレイヤー】

- ・町内会を核としたネットワーク
- ・若い世代だけの勉強会、チーム組織があると良い
- ・別組織を立ち上げる（会社か行政かNPO?）
- ・地域包括センターを設立
- ・サービスを必要とする人たちで出資して組織を立ち上げる
- ・事務局は専任で手当を出して、継続性のある組織にする（退職後の方など）
- ・監査機能は必要である

■地域コミュニティの仕組み

○地域でお金をまわす仕組み

○交流の場づくり

○住民の参加・活躍の仕組み

○情報発信

○地域でお金をまわす仕組み

- ・何でもボランティアというよりはお金がかかったほうが頼みやすい
- ・活動に合わせて報酬があると良い場合がある
- ・お金を支払うことで、地域で経済が回って良いのではないかと思う
- ・外部団体を作って活動した人には報酬

- ・地域で使える金券や商品券を作り、プレイヤーのモチベーションをあげる
- ・法人化して儲かる仕組みにしたい

○住民の参加・参画の仕組み

- ・歴史に詳しい高齢者から学ぶ場
- ・寺子屋で高齢者が子どもの勉強を見る
- ・若い人もやりがいを感じられればやりたいのではないかなと思う
- ・困りごとと助けられる人のマッチングができるしくみが必要
- ・高齢者と若い方それぞれ助け合える
- ・「こういうことに困っている」と発信があれば行きやすい
- ・お祭りやゴミ拾いなどから参加してもらう
- ・困っていることがあればできる範囲で手伝いたい、思っている言い出せない

○交流の場づくり

【既存施設の活用】

- ・まちセンの中に娯楽の機能を追加する
- ・おせっかい飲食店
- ・空き家を活用していく（読まなくなった本を置くなど）
- ・血圧を測るなど、わずかな時間でもコミュニケーションを取れるとよい
- ・地域の施設で野菜づくりをし、収穫した野菜で料理しパーティーを開く

【交流や活動の場づくり】

- ・カフェや子ども食堂、100円食堂などの交流の場があるとよい
- ・食材の持ちよりができる子ども食堂
- ・カフェにPCを1台置いて、気軽に高齢者も使用し学べたりできるようにしたら良い
- ・常にオープンなところで、集まる場があるとよい
- ・地域コミュニティをあまり求めている人達を引き込むための場が必要

【相談窓口】

- ・地域のお店や病院などの公共施設に担ってもらう
- ・困りごとを聞き合える関係づくりをし、気軽に近所で共有できる
- ・話せる窓口の場づくりが必要

○情報発信

- ・情報発信がとても少なく、基本的な情報すら届いていない
- ・若い世代に届くような情報発信（SNS）など、世代に合わせた情報発信
- ・広報さっぽろやフリッパーなどに折込みを入れる
- ・回覧板で情報を発信
- ・班長同士が集まって情報を共有し住民にも知らせる
- ・掲示板、伝言板での情報共有

第4章 参加者アンケート

1 アンケート実施概要

本アンケートは、参加者にワークショップについて率直な意見を伺い、次年度以降のワークショップの開催・運営等に活かすことを目的に実施した。

- ・調査対象 : 「市民自治を考える市民ワークショップ」参加者
- ・配布・回収方法 : ワークショップ当日（平成31年2月23日）に配布・回収
- ・回収数 : 27名

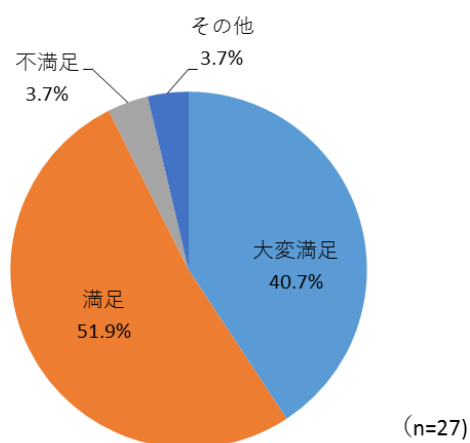
2 アンケートの質問項目と結果

【質問1】「市民自治を考える市民ワークショップ」に参加して

(1) 参加した感想（ひとつに○）

「大変満足」「満足」が回答の9割を占める結果となった。

選択肢	回	割合
大変満足	11	40.7%
満足	14	51.9%
不満足	1	3.7%
大変不満足	0	0.0%
その他	1	3.7%
無回答	0	0.0%
合計	27	100.0%



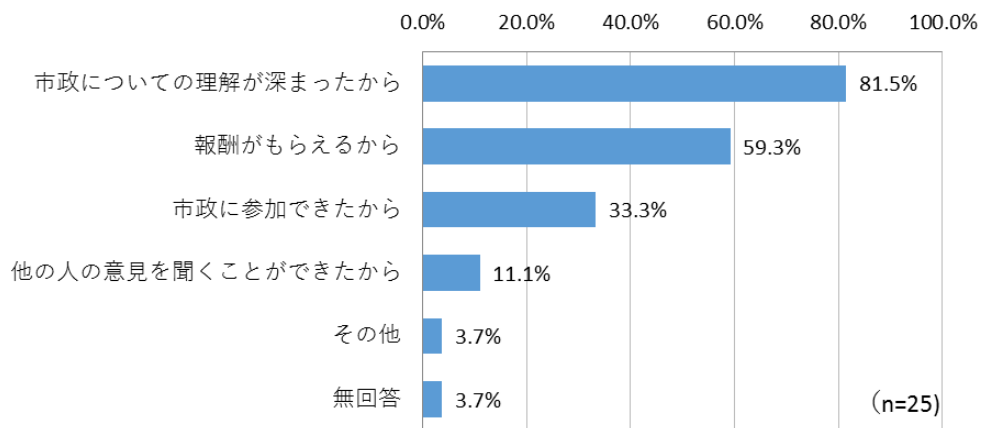
※その他意見の内容

・町内会について考えさせられた。

(2) (1) で「①大変満足」「②満足」と回答した理由（複数回答）

「市政についての理解が深まったから」との回答が 22 名と最も多かった。次いで「報酬がもらえるから」との回答が 16 名であった。

選択肢	回答数	割合
市政についての理解が深まったから	22	81.5%
報酬がもらえるから	16	59.3%
市政に参加できたから	9	33.3%
他の人の意見を聞くことができたから	3	11.1%
その他	1	3.7%
無回答	1	3.7%
合計	27	100.0%



※その他意見の内容

- ・ 関心を向けることの大切さを知りました。

(3) (1) で「③ 不満足」「④ 大変不満足」と回答した理由（複数回答）

参加者のうち 1 名が「不満足」と回答しているが、その理由の回答はなかった。

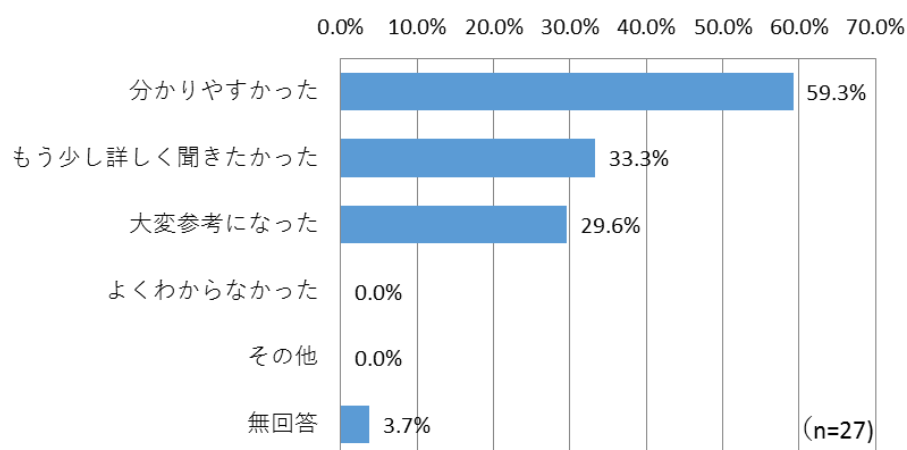
選択肢	回答数	割合
思ったより大変だったから	0	0.0%
有意義な話し合いができなかったから	0	0.0%
市政について理解できなかったから	0	0.0%
その他	0	0.0%
無回答	1	100.0%
合計	0	0.0%

【質問 2】 情報提供について

(1) 地域コミュニティに関する現状や取組事例、課題の情報提供について（複数回答）

「分かりやすかった」が最も多く 16 件であった。

選択肢	回答数	割合
分かりやすかった	16	59.3%
もう少し詳しく聞きたかった	9	33.3%
大変参考になった	8	29.6%
よくわからなかった	0	0.0%
その他	0	0.0%
無回答	1	3.7%
合計	27	100.0%



(2) (1) で「」と回答した理由（自由回答）

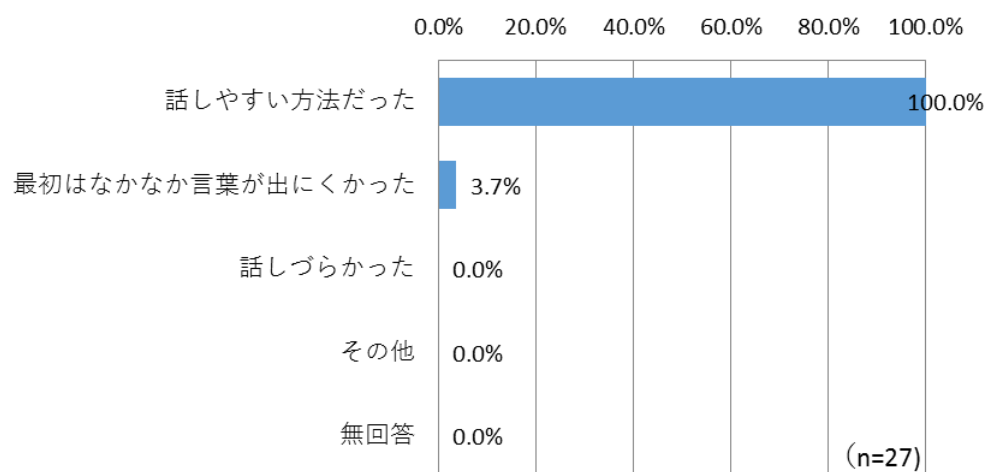
「よくわからなかった」と回答した方はいなかった。

【質問3】話し合いについて

(1) 話し合いの方法について（複数回答）

「話しやすい方法だった」と回答した人は27名であった。参加者の10割を占める結果となった。

選択肢	回答数	割合
話しやすい方法だった	27	100.0%
最初はなかなか言葉が出にくかった	1	3.7%
話しづらかった	0	0.0%
その他	0	0.0%
無回答	0	0.0%
合計	27	100.0%



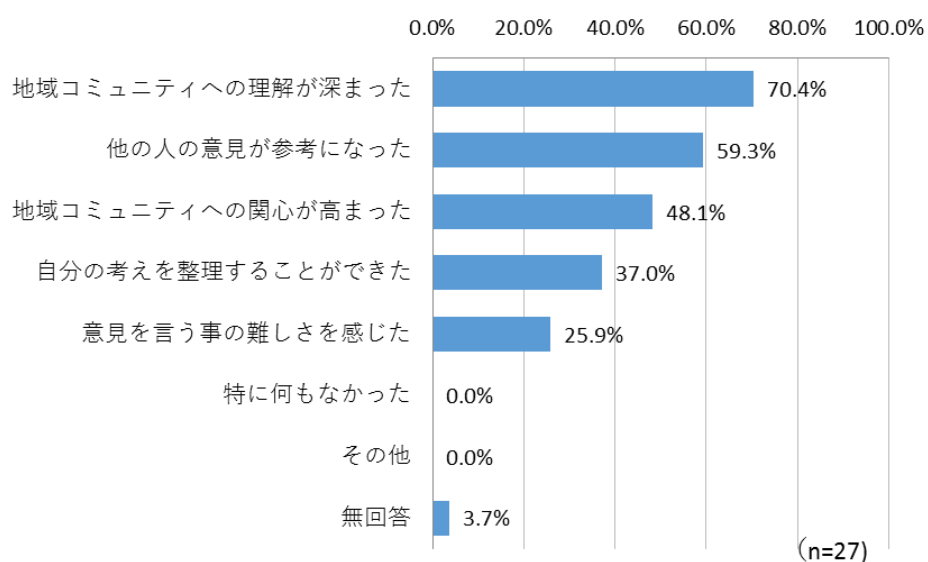
(2) (1) で「話しづらかった」と回答した理由（自由回答）

「話しづらかった」と回答した方はいなかった。

【質問4】参加して得たものについて（複数回答）

「地域コミュニティへの理解が深まった」と回答した人は19名、「他の人の意見が参考になった」と回答した人は16名であった。

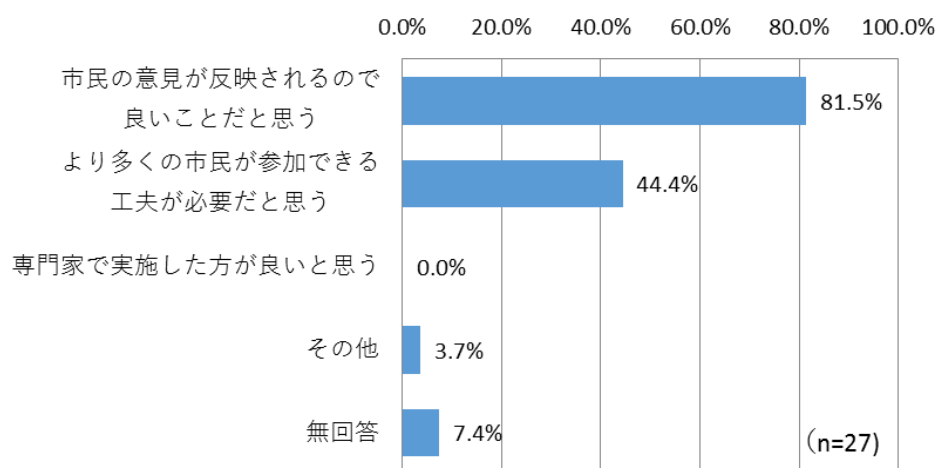
選択肢	回答数	割合
地域コミュニティへの理解が深まった	19	70.4%
他の人の意見が参考になった	16	59.3%
地域コミュニティへの関心が高まった	13	48.1%
自分の考えを整理することができた	10	37.0%
意見を言う事の難しさを感じた	7	25.9%
特に何もなかった	0	0.0%
その他	0	0.0%
無回答	1	3.7%
合計	27	100.0%



【質問5】ワークショップの実施について（複数回答）

「市民の意見が反映されるので良いことだと思う」が最も多く 22 件、次いで「より多くの市民が参加できる工夫が必要だと思う」が 12 件であった。

選択肢	回答数	割合
市民の意見が反映されるので良いことだと思う	22	81.5%
より多くの市民が参加できる工夫が必要だと思う	12	44.4%
専門家で実施した方が良いと思う	0	0.0%
その他	1	3.7%
無回答	2	7.4%
合計	27	100.0%



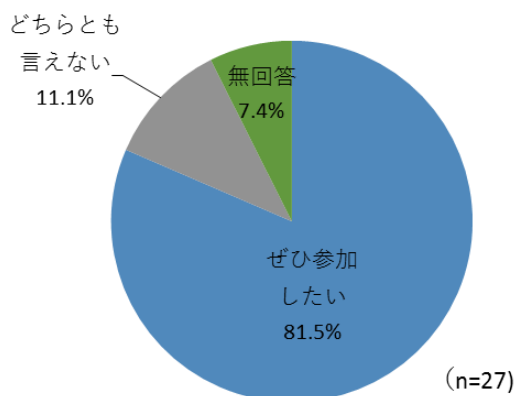
※その他意見の内容

・このような活動に積極的でない人の考えも参考になると思う。

【質問6】今後このような取組の参加について（ひとつに○）

今後もこのような取組に「ぜひ参加したい」と約8割の参加者が回答した。

選択肢	回答数	割合
ぜひ参加したい	22	81.5%
どちらとも言えない	3	11.1%
参加したくない	0	0%
わからない	0	0%
その他	0	0%
無回答	2	7.4%
合計	27	100.0%



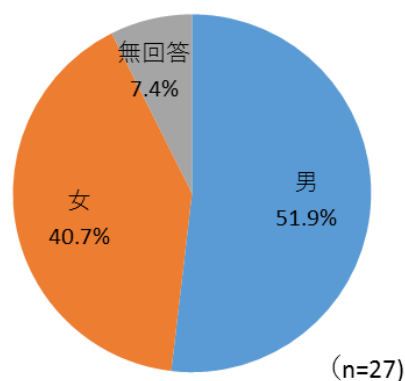
※回答理由

- ・地域の事を考える機会になった。皆さんの意見を聞けて参考になりました。
- ・民生委員が大変なことと思い、地域や全体の意識が高まることが大切と思う。（…少子高齢化時代）
- ・参加して得ること、学ぶこと、理解すること、他の方との意見を交わすことが、自分自身の成長にとっても必要なことだと思います。
- ・行政との関わりをもっと知りたい。
- ・様々な地域の様々な年代の人の考えを知ることができて視野が広がった。
- ・また参加したいが、より多くの市民が体験すべきワークショップだから特定の市民だけが参加すべきではないと思う。
- ・現状どうなっているのかの確認や、身の回りで起こっている流れが分かるから。
- ・地域の困り事を知ってもらえる事ができる
- ・色んなお話が聞けるので楽しい
- ・気づきを得ることができ、向上できるから（視点の大切）。
- ・市民としてまちづくりや公共のことに関わっていたいから

【質問 7】 回答者さま自身について

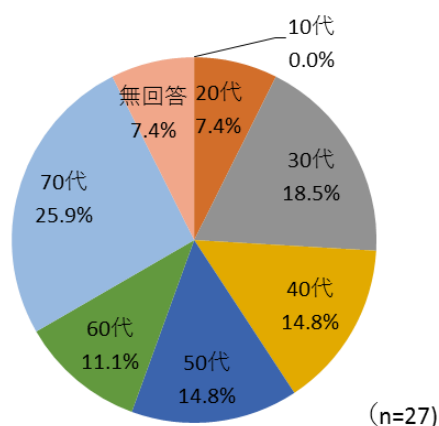
(1) 性別

選択肢	回答数	割合
男	14	51.9%
女	11	40.7%
無回答	2	7.4%
合計	27	100.0%



(2) 年代

選択肢	回答数	割合
10 代	0	0.0%
20 代	2	7.4%
30 代	5	18.5%
40 代	4	14.8%
50 代	4	14.8%
60 代	3	11.1%
70 代	7	25.9%
無回答	2	7.4%
合計	27	100.0%



【質問 8】 自由回答

27 名中 4 名から回答を得られた。内容は以下のとおりである。

- ・地域コミュニティというのも初めて聞いた言葉でしたが、3 時間程度でとても理解できて、とてもためになる話ばかりで、今後もこういう機会があったら参加してみたいのと、意見交換がスムーズにできて、スタッフの人がすごいなと思いました。
- ・各グループに進行役の方が入っていただけたので、自分の意見を発言したり、議論したりすることがスムーズに行えたと思いました。まちづくり活動について知るととても良い機会になりました。
- ・今日出た意見を今後どのように進め実行するのかを知りたいです。
- ・時間が短かった。事前に討論の事項を知らせておいた方が良いと思う。

3 参加者アンケート結果のまとめ

(1) 参加者について

今回の市民自治を考える市民ワークショップはテーマへの関心の有無に関係なく、幅広い世代の市民の意見を抽出するため、住民基本台帳から無作為で選ばれた方に参加案内を行い、参加申込をした方の中から抽選の上、参加者を選定するという手法（プランニングセル方式）で実施した。

なお、無作為抽出にあたっては、あらかじめ、居住区や性別、年齢層ごとの構成比が札幌市の構成と同じようになるよう考慮して抽出した。

(2) 参加者アンケート結果

1) ワークショップ全体について

ワークショップに参加した満足度については、「大変満足」と「満足」をあわせると9割以上と、満足度が高かった。その理由としては、「市政についての理解が深まったから」が81.5%と多く、次いで「報酬がもらえるから」が59.3%であった。

また、話し合いの方法については「話しやすい方法だった」という回答が100%と、参加者全員が他の人と意見交換することについて満足度が高く、今回のようなワークショップ形式での議論が全体の満足度につながったことが伺える。

2) 情報提供について

情報提供について、「わかりやすかった」が59.3%と最も多かったが、「もう少し詳しく聞きたかった」という意見も33.3%であった。

3) ワークショップについて

ワークショップを実施することについて、「市民の意見が反映されるので良いことだと思う」という回答が81.5%と多く、今後の参加意向も81.5%と非常に高かった。多くの参加者が、他の参加者の意見を聞いたことがよかったという感想を持っている。

また、参加して得たものについても、「地域コミュニティへの理解が深まった」が70.4%と最も多かったため、このワークショップを通じて、地域コミュニティの活性化へのきっかけにつながったことが伺える。

また、「他の人の意見が参考になった」も59.3%と高かったため、参加者同士の意見交換の時間をしっかりと確保し、参加者全員から均等に意見を引き出すことの必要性を再認識できる結果となった。

5章 ワークショップの考察

今回の市民ワークショップでは、地域コミュニティの範囲やプレーヤー、役割などを共有し、これからの地域コミュニティの将来像を考えた結果、さまざまなアイデアが出された。

1 地域コミュニティの現状について

(1) 地域コミュニティのイメージ

地域コミュニティのイメージとしては、「あいさつがある関係」や「年代が幅広い」などの意見が寄せられたほか、全てのグループから「町内会や町内会活動」という意見が出された。

また、地域コミュニティの希薄化などの課題についてもイメージとして出されたが、その課題も町内会の課題として出された意見が多かった。

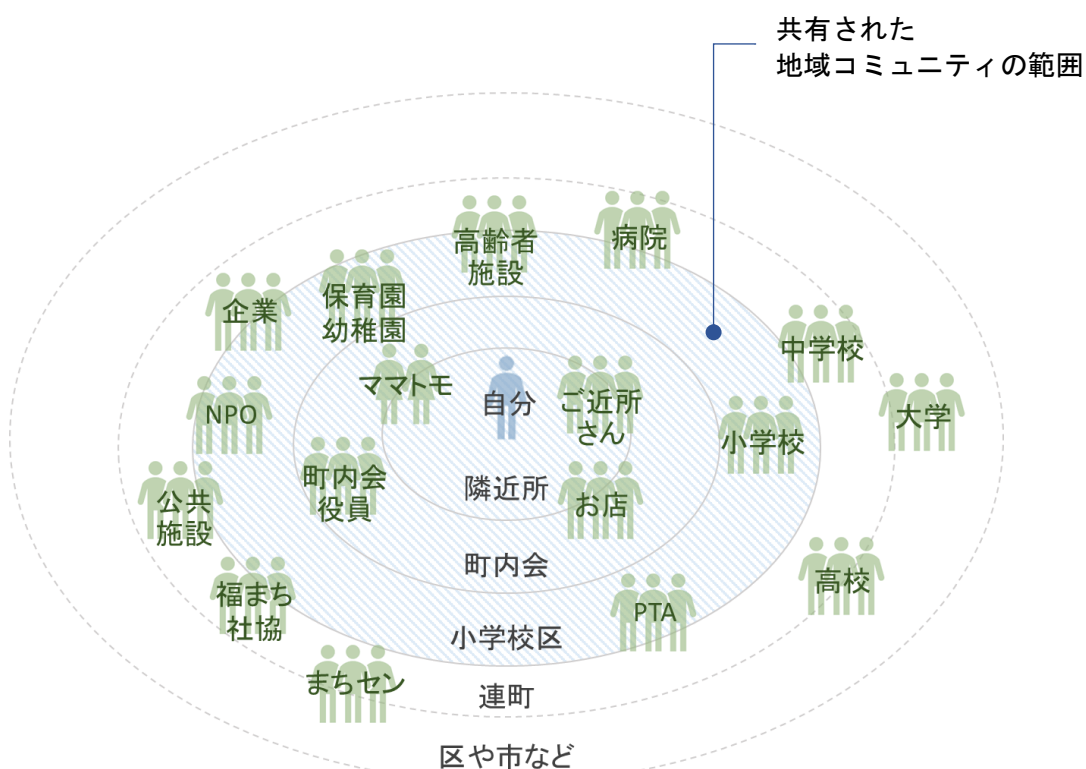
やはり市民にとって、地域コミュニティというと町内会が一番身近でイメージしやすいということが伺えた。

(2) 地域コミュニティの範囲とプレーヤー

地域コミュニティの範囲を考えた際は、町内会に限らず、隣近所や小学校区、さらには連合町内会や区、市、道までが地域コミュニティと言えるという意見が出された。その中で、どのグループも共通して、おおよそ町内会範囲～小学校区域くらいが、最も地域コミュニティとしてイメージしやすい範囲であると確認できた。

グループ内で共有した範囲にいるプレーヤーは、町内会や住民以外にも、病院や高齢者施設、地域団体、保育園や学校、公共施設、NPO、企業や店舗など、さまざまな団体が出された。

このワークショップでは、地域コミュニティと聞くと一般的に町内会をイメージしやすいが、一歩踏み込んで考えると地域には町内会以外にもさまざまな団体がいて、それらを含めて地域コミュニティと言えるということが共有認識として確認できた。



2 地域コミュニティの役割と活動

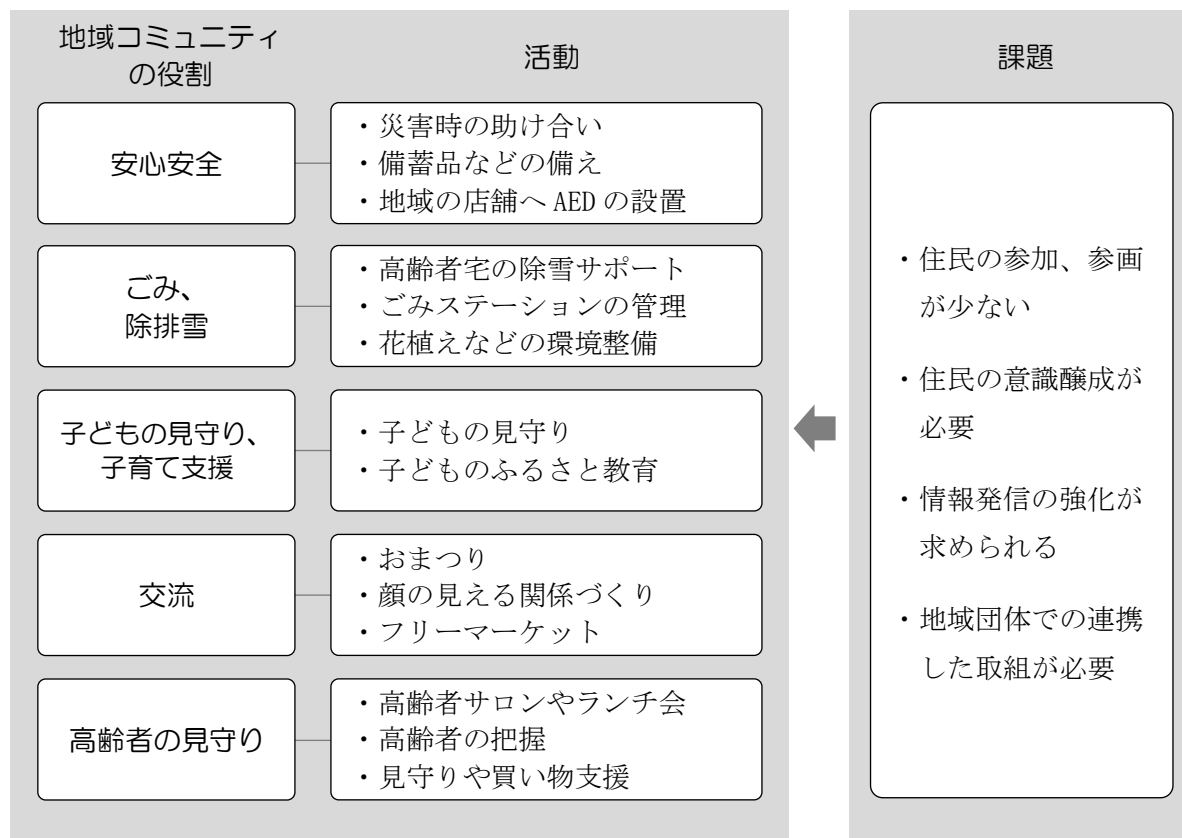
地域コミュニティの範囲やプレーヤーをグループ内で共有した上で、地域コミュニティの役割について考えてもらったところ、「安心安全」「ごみや除排雪」「子どもの見守り、子育て支援」「交流」「高齢者の見守り」などの意見が多く出された。

これらの役割については、昨年度に実施した市民自治を考える市民ワークショップで出された「町内会の役割」とほぼ同じ結果となった。やはり、これらの役割が町内会をはじめとする地域コミュニティに求められているということが再確認できる形となった。

また、地域コミュニティの活動については、町内会に限らず地域一体となった取組として、先述した「役割」からより具体的な活動について考えてもらった。

一方、それらの役割や活動において、参加者の減少やお手伝いなどの参画が少ない、その要因として情報が届いていないなどの課題も多く挙げられた。

それらの課題を解決するための仕組みや組織体制についての考え方は、次頁以降で示すこととする。



3 これからの地域コミュニティの仕組みと組織体制

今回のワークショップでは、地域コミュニティの役割や活動を進めるうえで、町内会だけではなく地域のさまざまなプレーヤーが連携して取り組んでいくことの必要性が確認できた。

また、これまで地域コミュニティの中核を担ってきた町内会は、担い手不足やニーズの変化に伴う役割の増加などによりこれまでの手法では運営が厳しくなってきたため、市民からも町内会の事業のスリム化が求められていることがわかった。

そのため、町内会はごみや除排雪など暮らしに最低限必要な役割を担い、それ以外の取組や活動は地域の他団体と連携して担っていくことが、地域コミュニティの理想的な組織体制であるという意見が多く出された。下図のように、町内会をはじめ地域のさまざまな団体がつながるネットワーク型のコミュニティが将来のイメージとして共有された。

今後は、そのようなネットワーク型のコミュニティを形成して活動していくことが望ましいが、それに向けた組織づくりやコーディネート機能が課題となる。ワークショップでは、町内会がコーディネート機能を担うという意見もあれば、全くの別組織を立ち上げて事務局を有償で担ってもらうとよいなどのアイデアもあった。いずれの手法にしても、コーディネート機能を担う人または団体の負担軽減の考慮が求められる。

また、持続可能な組織にするためには、ボランティアでは現在の町内会と同様に担い手不足の課題に直面することが想定されるため、地域でお金を稼ぐ仕組みも合わせて検討し、有償でコーディネートの役割を担ってもらう必要がある。そのためには、地域でカフェや店舗などを運営して収益を上げたり、地域通貨を用いるなどの仕組みづくりもアイデアとして出された。

一方、コーディネート機能と合わせて、地域の課題ややるべきことを地域住民主体で考え、地域一体となって取り組んでいくことが求められる。そのためには、コーディネート役だけでなく地域住民や地域の各団体に所属する一人ひとりが活躍できる機会も創出することで、一体的なネットワーク型の組織が成り立つと考えられる。

今後は、町内会の活性化だけでなく、住民主体のネットワーク型地域コミュニティの組織づくりを支援していくことが必要と考えられていることがわかり、札幌市の施策の検討にあたって非常に参考となる意見が得られた。したがって、次回以降の市民ワークショップにおいては、住民主体でどのような組織づくりができるか、またそのためにはどのような支援があるとよいかなど、ネットワーク型コミュニティの形成に向けた具体的な検討につながる意見をいただくことができるよう、より実効的なテーマ設定や手法の採用に向けて工夫していきたい。

